

2026 年 6 月 28 日 改訂

文藝さくらす 募集要項

1. 対象者

市内外問わずどなたでも

2. 作品の投稿について

(ア) 投稿できるジャンル：文字がメインの作品 例) 小説、エッセイ、評論

※画像が入る場合は 1 ページ 1 枚まで (白黒のみ可)。

挿入部分の細かな指定もご記載ください。

(イ) 文字数上限：10000 文字程度 (タイトル・あとがき除く) ※文字数下限はありません。

(ウ) 備考：一回の掲載につき一作品のみとさせていただきます。

3. 投稿締切

2026 年 9 月 30 日 (水)

4. 投稿方法

・手書き原稿の場合：桜川市生涯学習センターさくらす 1 階総合案内にてご提出ください。

・下記メールアドレス宛に以下の要領でお送りください。

メールアドレス：sakusakusakuras@kbf.biglobe.ne.jp (このアドレスは投稿専用です)

原稿送付要領

件名：「文藝さくらす」原稿応募

本文：①氏名・ペンネーム

②作品タイトル

③作品のジャンル (小説・評論・詩・随筆等)

④連絡先電話番号

添付：①作品データ (Word)

・本文原稿

・あとがき (100 文字程度)

②著者近影 (jpg.等の画像データ) ※イラストも可

※作品が完成してからの投稿をお願いいたします。

※こちらで用意したフォーマットに当てはめて編集します。段落やページを跨ぐ等、文章にこだわりたい方は事前にフォーマットを送付しますのでお電話でお申し出ください。

5. 発行について

(ア) 発行予定日

1 月下旬～2 月上旬

(イ) 頒布場所

桜川市生涯学習センター さくらす

6. 注意事項

- ・公序良俗に反する作品など、図書館の文芸誌にふさわしくないと判断された場合、掲載を見送らせていただきます。
- ・生成 AI による創作作品の投稿はできません。アイデア出しなど、直接の創作に関わらない場合は使用可能です。

※生成 AI で書いた文章が含まれる可能性があるとして判断された場合には、事実確認をする場合があります。

- ・上記に該当しない全ての作品を掲載いたしますが、ページ数の都合で一誌に載せられない場合は、次号の掲載となる可能性があります。その場合は事前にご連絡させていただきます。
- ・著作権は著作者に帰属します。投稿いただいた作品は、本誌への掲載および複製、販売に同意しているものとします。
- ・原稿料は原則発生しません。

7. 掲載例

『ノマディアが残された 王城夕紀』
書評 ひまわりママ

全くノーマークの著者だった。
私はSFが好きだが、最近のSFはあまりフィクションと感じがない。むしろ現実の方がフィクションにみえてくるように感じる。
本書は「移民・難民（作中で「動民」とされる）」と戦いを語る。
何がすれ違っているかという、動民は諸事情により動民になったわけで、好き好んでさらけ出しているわけでもない。命を奪われる危険と直面しながら、ただ生きることを目指している。かたや「国」は、自分たちの領土に土足で入り込んでくる動民たちにプレッシャーを感じている。自分たちの居場所が奪われるのではないかと、いう疑心暗鬼だ。それはナショナリズムと結びついて、排斥へと向かう。どこへ行っても、いつまでたっても動民の安住の地は与えられない。

分断の果てに、何が起ころうだろうか？
本書を読んで非常に衝撃を受けたのだが、読んだタイミングも良かった。左記二つの作品に、一か月ほど前に出合っていたのである。
『プロバガンダ戦争 分断される世界とメディア』 内藤正典 集英社新書
戦争、紛争、難民・移民排斥、パンデミック……。世界は様々な問題を抱えているが、それをどう捉えるかは、国・地域や立場によって変わる。メディアも国の意向を忖度してプロバガンダ化することもあろう。
日本のメディアはイスラム社会の情勢をほとんど報道しない。「ガザ」という言葉はよく聞くけど、世界地図のどのあたりのことかすら、私たちは把握していない。アメリカやヨーロッパ視点の報道しか受け取らない私たちは、ヨーロッパが、なんとなく不安だから「自国」への難民受け入れを拒否していることを、知らないのだ。
右記の『プロバガンダ戦争』は各国メディアがどんな報道をしてきたかを追うことで、イスラム社会がどれ

ほど無理解にさらされてきたかを語っている。難民が生まれる原因となった各地の紛争も、列強各国の経済戦争（武器の輸出など）の代理戦争ではないのか？ という側面があり、そもその責任は欧米にあるんじゃないの？ などの移民難民の主張も紹介している。世界一迅速で中立なメディアが「アルジャジーラ」であることも教えてくれた。
※アルジャジーラは、アラビア語と英語でニュース等を二十四時間放送している衛星テレビ局。本社はカタールのドーハ。日本でも放映を見ることが出来る。
もうひとつのキーワードは「免疫」である。「はたらく細胞」というコミックがあるが、こちらの実写映画を見ていた。主な登場人物として白血球やキラーT細胞やマクロファージ先生がいるが、彼らの働きは体内に入ってきた異物を取り除くことである。では、自己と他者を、何で見分ける？
『ノマディア』では、既存の「国」の中に「ガーデン」と呼ばれる独立自治単位が、自然発生的に生まれている。国が弱体化し、もろもろ制御できなくなったせ



ひまわりママ

今回紹介した本
『ノマディアが残された』王城夕紀／著 中央公論新社（二〇二四）
『プロバガンダ戦争 分断される世界とメディア』内藤正典／著 集英社新書（二〇二〇）

いであるが、その様はまるで細胞のようだ。だが、動民にとってはとりあえずでも希望が持てる場所である。流れ込む「国」は癌であるガーデンを潰そうとする。癌は当然拒絶する。
民族も肌の色も言葉も入り乱れて、地域のアイデンティティを損えない。では、誰かを排斥する時、何を目標にすれば良いのだろうか？
『ノマディアが残された』は、巻末の参考文献リストがめっちゃたくさん挙げられています。それだけ著者が、生み出すのに苦しんだということでしょう。この参考文献たちにも興味深い本がたくさんあって、また読書本が増えます。

8. 問い合わせ先

桜川市立図書館

電話番号：0296-71-7707

担当者：鈴木、柴沼